

人工膝関節置換術を高精度な設置と安全性を求めて実施



羊ヶ丘通りに面しており
アクセス抜群

「人工膝関節置換術は、投薬やリハビリなどで対応できなくなった膝には非常に有効な手段です。しかし、治療に求められる知識や技術は近年、さまざまな面で進歩しています。当院では手術の精度向上と合併症予防の



鈴木孝治 副院長

北海道整形外科記念病院
札幌市豊平区平岸7条13丁目5-22
〒0118127 001
<http://www.hokkaido-seikei-kinen.jp/>

すずき・こうじ / 1983年北海道大学医学部卒業。同大整形外科教室入局。92年米国Hospital for Special Surgery 留学などを経て2000年北海道整形外科記念病院診療部長就任。15年同院副院長就任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。日本人工関節学会、日本関節病学会評議員 日本リウマチの外科学会評議員 日体協スポーツドクター

徹底をはかり、退院後のQOL改善を図っています」と話す鈴木孝治副院長。

豊富な症例数をほこるが、手術では術者の術前計画、勘のみで頼るのではなく、手術中ナビゲーションを使用して実施。これにより、人工関節が正確に収まっているかを経験と機械でダブルチェックしながら手術をすすめることが可能となる。

また、膝の靭帯バランスなどが不十分だと、人工関節が正確に収まっているにもスムーズな動きができないこともある。同院ではそのような問題を解消するため、民間企業などと共同で開発したデジタルバランスシステムを使用。このような精度やバランスの獲得の結果、手術直後だけではなく長期における良好な手術結果につながっている。